

昼下がりの白い薔薇たち

乃木りりー

登場人物

春子……デザイナー

夏子……モデル兼シングルマザー

秋子……更年期に悩むモデル

冬子……花嫁

花婿

ウェイター

オーナー

スタイリスト

アシスタント

※老婆……冬子の母

※その付添い介護者

※朝子……冬子の娘

※朝子、老婆、付き添い介護者の3名は、登場しなくても成り立ちます。

設定

挙式直前。但し、本来結婚式場ではない、洒落たサロンでの人前式を予定している。そのウェイティングルーム。鏡の前、スタイリストが冬子のお支度をしている。

主婦だった春子の手仕事品は、ネットから火がつき大ブレイク、今や人気デザイナーとなっている。

夏子はすったもんだの上、子供を引き取って離婚。今は細々モデルの仕事と育児の両立を頑張っている。

秋子はモデルの道を邁進してきたが、不倫相手と別れ、最近更年期障害に悩まされつつ、漠然とした不安に駆られる日々を送っている。

そして冬子。あれだけ誰とも付き合えないと言っていたが、電撃結婚をするという。

報告を受けた夏子が皆に知らせ、サプライズを考えたり、ブライズメイドのドレスを春子にオーダーしたり……ドタバタのまま挙式当日、久しぶりに4人が再会する。

花をつけた薔薇の木。

隅でキョロキョロしながら歩く若い女子（朝子）、オーナーが案内し、付き添いの介護者に手を引かれた嬉しそうな老婆が舞台上をゆっくり横切り、幕が開く――。

大きな窓があるサロンのウェイティングルーム。
春子、笑顔で登場。
その後、笑顔で登場。
その後、笑顔で登場。
その後、笑顔で登場。

春子 冬子！
冬子 あ、春子お、秋子もお！

姿見の前、スタイリストの手で支度中の冬子、笑顔で振り返る。

春子 ちよつとちよつと、冬子、どうということお!? めっ

ちやびつくりだよ。

ふふふ……

後でじっくり説明してもらおうよお。

冬子、おめでどう。

ありがとう。

あ、そうよね、まずはおめでどうよね。おめでどう！

ん、ありがとう。

で……なんでなんで？

ん？

んって冬子が結婚だよ！ 久々に夏子から連絡きたと

思ったら、いきなり冬子が結婚するっていうし！

今の今まで春子、これはネタかも、ドッキリかも、つ

てずつと言ってた。

なにそれ。

だってだよ、誰かと付き合うなんて考えられないしと

か言ってた冬子がいきなり結婚……だよ！ 秋子はび

っくりしなかったの？

や、そりゃびつくりしたけど……。でも人生って色々

あるからさ。

だってこの冬子がだよ。

このって強調しないで。

いや、する。彼がいたことすら知らなかったよ私。

あ、それは私も知らなかった。

あ……

しかもさあ、電話してもでないし！

あ……

だいたい、バ、バ、ババー……

ちよつと春子！ 何いきなりばばあって！

春子 ばばあなんて言っていないって。バ、バー……だめだ
出てこない。
秋子 ？

夏子、携帯で話しながら登場。

夏子 ついた？ うん……うん。え、違う、駅前の方のサロ
ン。うん、わかる？ ……そうそう、そこそこ……は
い、気をつけて来てね。

電話を切る夏子。ポーズを決めて、

夏子 (独り言) よし、準備はOK。

バーバーバーと宙を見ながらつぶやいている春子。

秋子 夏子、久しぶり。
夏子 秋子、ひっさしぶり。元気？
秋子 うーん、まあまあ。いまいち体調が良くなって。
夏子 大丈夫？
秋子 大丈夫よ、更年期。
春子 バーバーバツバー……
夏子 春子、どしたの？
秋子 さつきからこうなのよ。

額の汗をハンカチで拭う秋子。

春子 バー……
夏子 バー？

笑う冬子。

春子 名前よ名前。
冬子 ……バルザッキンス。
秋子 それ！ 一体なんなの？
夏子 何って、旦那さんの苗字じゃない、それ。
秋子 え！
夏子 (冬子に) ねえ？

冬子 うん。
秋子 えええ！

冬子、わざとらしい笑顔。

夏子 招待状見てないの!?
秋子 えー、書いてあったかなあ。

スマホを取り出す秋子。

春子 芸名？
冬子 ううん。
夏子 外国人……だよね、この名前。
冬子 ふふふ。
春子 そうなの!?
冬子 ふふふ。

秋子、スマホを近づけたり遠ざけたりしている。

春子 あ、老眼だ。
秋子 言わないでー。ちよつと小さい文字が見えにくいだけよ。これくらい離すと……見えるから。
春子 それぞまさに、ザ・老眼。
夏子 秋子、すっ飛ばしたんじゃないの？ 見えにくくて。
秋子 あったあ、小さい文字で。
春子 で、どこで会ったの？ ナニジン？ 何やってる人？
金髪？ どんな人？ イケメン？ 筋肉ムツキー？

矢継ぎ早に質問せめする春子を、隅に引つ張る夏子。

春子 なになに。
夏子 今から式なんだから、ちよつとそつとしかなきや。
春子 聞いているだけよ、何も邪魔してない。
夏子 尋問みたいになつたよ。
春子 だって何にも知らないんだもん。
夏子 あんまり言いたくないんじゃないの。
春子 言いたくないって、だったら呼ばないでしょ式に。
夏子 まあね……

夏子 春子 夏子 春子 夏子 春子 夏子 春子 夏子 春子 夏子 春子 夏子 春子 夏子 春子 夏子 春子 夏子 春子 夏子 春子 夏子 春子

それに聞かれるのが嫌だったら嫌って言うでしょ。
 言えない人もいるわよ。
 そりやそうだろうけど、冬子だよ。
 まあね。……で、春子、ちよつと話があるんだけど。
 ん、何？
 服のことなんだけど。
 うん。
 白になってるじゃない？
 うん。
 私、青でっってお願ひしたよね？
 ああ、サムシングブルーって感じの。
 そう。
 サムシングブルーねえ……
 そう、サムシングブルー！ サムシングオールド、サムシングニュー、サムシングボロー、サムシングブルーのサムシング4よ。(謎のポーズ決め)
 あのさあ、ウエディングにはサムシング4が縁起がいいって、なんか古臭さがゆがめなくてサ。
 古いうていうか普遍でしょ。外国じゃ昔からあるし。超保守的っていうか。
 え。でも結婚式ってそんなものよね。
 そう？ 冬子の式は式って言っても両家ご親族参列とか、お堅い企業の上司参列とかかってわけじゃないし、場所だって教会とか神社でもないし、仲間内でやる人前式でしょ。
 そう言われたらそうだけ……でも白って花嫁の色よね。式の参列者が白を着るって、マナー違反よ。
 うん。
 私たち、こんな歳にもなって白のドレスで列席したら、常識知らないと思われちゃう。
 そう？ 夏子、正直なんかちよつと色々古くない？
 へ？
 頭固すぎよ、ガッチガチ。
 は？
 時代はね、ものすごい速さでどんどん変わってるの。そんな言い方したら、再婚なのに白い服着て結婚するのも変よ。
 うん……

春子

このドレス、私のスペシャルデザインなんだからインスタ映え間違いなし。

夏子

いい加減なこと言つて。

春子

やだ、怖い顔して。眉間にしわ寄ってるよ。もうそんなおっかない顔するから、夏子離婚になったんじゃないの？ な〜んて冗談だけど。

夏子

……。で話戻すけど、どうして勝手にブライズメイドのドレス、白に変更したの？ デザインもバラバラ。だから、サムシングブルーに因んで青なんてだっさいから。それにみんな同じデザインである必要もないでしょ。

夏子

だったら、最初に一言言つてよ。

春子

なんて？

夏子

青じゃなくて他の色にしない？ とか。

春子

あり。ううん、そこは自信ある。ファッションのトレンド、わざわざ聞く必要ないもん、私の提案が逆に旬を作るっていうか。

夏子

……。すごいね、それ。モデルの私にそれ言う？

春子

私のフォロワー数知ってる？ 商品も全部予約完売。

夏子

でもそれとこれは別の話。

春子

逆になんていちいち夏子に確認しないといけないの？

夏子

なんでって、一応今回まとめ役だし。

春子

昔っからそうだよね、何気に仕切りたがる感じ。

夏子

仕切りたがる？

春子

そう、いつも何かの間に夏子が入って、私たちはそれに

夏子

に合わせなきゃいけない感じ。

春子

そんな風に思ってたの？

夏子

あ、夏子、そのドレスもうちょっと胸元こう下げて着

春子

た方が素敵よ。アバンギャルドな雰囲気で。

夏子

……。アバンギャルドで。

春子

(聞いていない) いける、最旬！

夏子

私、ずっとモデルしてるんだから、何がイケてるかく

春子

らい、春子よりある意味わかるわよ。

夏子

キッツ。そう思ってるのは自分だけだったりして。しばらくやめてたじゃないモデルの仕事。

春子

まあ子供も小さかったし。

夏子

……。夏子が子育てしてる間、私は頑張ってたの。

夏子

わかるわよ。でも主婦からデザイナーに転身って、甲斐性ある旦那さんのおかげでもあるわよね。子供がないと好きに時間とお金も使えるし、羨ましいわ。

春子

……。じゃあ変わってあげるけど？

夏子

モウ。で、とにかく私たち参列者は、トレンドよりもマナーをわきまえて誰も不快にさせないで、且つ祝福の気持ちを伝える、というのが義務のように思うよ。

春子

だからさ、義務とかマナーとか言い出すと、そこでファッションは終わるのよ。いつの時代もその壁を突き破ることが、新しいブームの到来を意味するのよ。シヤネルだってそうよ。解放したんだもの、女性たちをコルセットから。黒色だって当時は喪服でしか着なかったのよ。それが今じゃどう？

夏子

わかるけど、今日はファッションショーでもコレクションでもなくて、冬子の結婚式。私たちはそれに集まった友達で、ブライズメイド。目立つんじゃないよ。ささやかにお祝いする気持ちが一番に持つべきよ。

春子

ちよつと待って。そんな言い方されたら私、お祝いする気持ち持っていないみたいじゃない。私、冬子のことすつごくお祝いしてるわよ、心の底から。ささやかにじゃなくて、ぱあーつと華やかにだけだね。

夏子

なるだけ常識的になりたいの。せめて白にちよつと何か足さない？ コサージュとか何でもいいんだけど。

春子

……。ま、別にそれでもいいわよ。

フラメンコのように手を2回叩く春子。

アシスタントがサツと現れる。

ウェイトイングルームの鏡前では、赤い口紅がひかれ、準備が整っている冬子。

スタイリストはすでにいない。

鏡を無言で見つめる冬子。

冬子を惚れ惚れと見つめる秋子。

秋子

冬子、綺麗。

冬子

ありがとう。

秋子

……。うん。

冬子

……。うん。

二人（同時）あ の さ。

秋 冬 秋
子 子 子

ごめん、やだ何なに。
ううん、お先にどうぞ。

秋 冬 秋
子 子 子

大した話じゃないんだけど……すつごくおめでたいし。すつごく嬉しいし。でもなんかちよつと寂しい。寂しい？

秋 冬 秋
子 子 子

うん……何なんだろ……自分でも意外。……秋子は一生結婚したくないんだったよね。一生したくないとまではいかない。

秋 冬 秋
子 子 子

まだ好きなの？ あの人のこと。
ううん、もうきつぱり別れたから。もう忘れた。
じゃあ、またその人と再会したら？ 相手も離婚して
独身になってたら結婚したい？

秋 冬 秋
子 子 子

ううん……したくない。
じゃあ質問変える。どんな人だったら結婚したい？
ううん……

秋 冬 秋
子 子 子

やっぱり藤田よね？
ないって。

秋 冬 秋
子 子 子

だから例えばよ、もつとその、前に会っていたら。
(きつぱり)ないな。

秋 冬 秋
子 子 子

うつそ、盛り上がってなかった？
なんか……何事もタイミングよね。そもそも不倫する
人って、結局自分のことしか愛してないのよ。口では
なんだかんだ言っても、奥さんのことも、子供のこ
も、相手のことも、全部二の次。

秋 冬 秋
子 子 子

そうばっかりでもないと思うけどね。
ってそれより冬子は？ まだ聞いてなかった、旦那さ
んになる人の事。

秋 冬 秋
子 子 子

あり、ね。
うん。

秋 冬 秋
子 子 子

……
……

秋 冬 秋
子 子 子

？
ん。
何、この変なマ？

秋 冬 秋
子 子 子

(苦笑い)
さっきの話の感じだと、外国人なんでしょ？

冬子、首をかしげる。

秋子

ちよつと、何、どういうこと？

(堰を切ったように)あのね、うちの子無事就職したのよ、この春から。社会人。で、会社の寮に入って私、23年ぶりにまた一人暮らし。

秋子

そうなんだ！ おめでとう。

あの子、最近じゃあんまり家に寄り付きもしなかったのよ、ゼミだ、サークルだ、バイトだ、とかなんとか言っただから別に暮らしても大して変わらないうって思ってたんだけど、いざそうなったら寂しくて。そんなに毎日顔合わせるわけでもなかったのにね。

へえ、そんなもんなんだ。

それでゲームするようになったの。

ゲーム？

うん、オンラインゲーム。戦うのよ、バツバツバツ敵を切りつけながら、ドロップした宝箱をゲットして装備を強化してレベルアップして。ダンジョンや毒の沼をね、こう、どんどん進んでいくの。

…ごめん、あの、彼の話は？

そのゲームで会ったの。

え？

私はソルジャーで剣しかないから、近距離戦にはいいんだけど、長距離戦は弱くて。毒の沼で体力消耗しまくって死にそうになってる時に現れたの。

何が？

彼が！

え

イノシシに乗って！

イノシシ(絶句)

あ、と言っても何も特別な白イノシシとかじゃないのよ。普通の茶色のイノシシ。ついでに言うと、白イノシシに乗れるのは神みたいな人だけ。そんなの雲の上の上の上。あ、でね、彼、魔法使いでヒーリングの呪文とか惑わしの呪文とか使えるの。

はああ!? なんか、もう、こう、変な汗出てきた。

秋子

ハンカチで、首元を拭う秋子。

春子と夏子、奥から移動してくる。

秋 春 夏
子 子 子

ごめんごめん、ちよつと時間かかっちゃった。
さして、冬子、聞かせてもらおうよお。どんな彼よ！
！

あたふたする秋子。

夏 秋 春
子 子 子

やだ、秋子、汗すごいわよ。
もう、こう、なんて言うの。
ほんとに汗ひどいよ。大丈夫？ これが例の更年期の
ホットフラッシュ？ 確かにこれじゃ仕事にならない
わね。衣装が汗で濡れるの嫌がられるし。
これは……なんか、こう（しきりに汗を拭う）。
で、冬子？

（2人に）毒の沼で会った魔法使い。
ん？

普通のイノシシに乗ってる。

イノシシい？

そう、茶色の。

なにそれ？

さあ。

え？

あ！ 面白いえば私、こないだ神戸に行ったとき、六
甲山でイノシシに遭遇したの。あそこ危ないの！ イ
ノシシがいるのよ。ちようどこの時期発情期で凶暴な
んだって。冬眠しないんだってさあ、イノシシは。怖
いよねえ。

イノシシって冬眠しないの？

そうなんだって。だからこの時期、山行くならイノシ
シ注意よ。

わかった。

ちよつと、ちよつと、話ずれてる。

あ……なんだっけ……そうだイノシシ。（冬子に）ど
んな人なのよお、もったいつけずに教えてよ。

長距離戦に強いんだって。

長距離戦？ ふふふ、強いんだ。

何が。

何がって。オールナイト、タフネスってことでしょ。

オ………

夏 春 夏 春 秋
子 子 子 子 子
春 夏 秋
子 子 子
春 秋
子 子
春 夏 秋 春 秋 春 秋 春 秋
子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

春子
で、そのバー……なんだっけ、イノシシ並みのタフネスガイは一体何ジンよ？

3人、じつと冬子を見る。

冬子 多分日本人だと思う……日本語通じるし。

3人 ?

春子 イケメンなの？

冬子 どうだろなあ。

春子 どんなどこに惹かれたの？

冬子 うーん……さっきも秋子にちよつと言いかけたんだけどね、やっぱり狩りの腕と、魔法が使えるところかな。

茶色のイノシシのくせに素敵なトコいっぱいある人。

もう頼りつきり。

顔を見合わせる春子と夏子。

夏子 (秋子に) こりゃ汗も出るわ。

秋子 (頷く)

春子 狩りの腕って何？

夏子 あれじゃない？ バーゲンとか。

春子 ああ、そっちね！

冬子 違う違う、獲物狙うんやあ。

春子 獲物？

冬子 そう、バケモノの皮剥いでなめしたり、それ売ってお金に換えたり。

3人 えー!?

春子 マタギ？

夏子 ちよつと、冬子、真面目に言っで。意味わかんなくて

冬子 頭こんがらがってきた。

冬子 言っでるわよ。

夏子 どこが。

冬子 どこがっで、最初から全部。

夏子 全部っで……そんなわけないじゃない。

春子 (冷やかす) クーガー復活。必殺男狩り。

春子 (春子に) 春子はちよつと黙っでて。まとまる話もまとまらなくなるから。

春子 そもそも、どうまとまるのよこれ。今日の夏子、いつ

も以上にシリアスすぎるわよ。

だって大事な日じゃない？

それだけ？ 本当はちよつと羨ましいんじゃない、冬子が？

どういう意味よ

イノシシでオールナイト、タフネスガイ！

そんなふざけた事言つて。

あーん、私もタフなイノシシ欲しい。うちの小鳥ちゃん、暗くなるとすぐ眠くなるから、私、毎晩朝までぐっすり。

あはは。

(冬子に) 変わってあげよつか今日だけ。

春子ったら更に女の幸せ独り占めするつもり(笑)？

え……。更に女の幸せ独り占めって何？

何って……。春子は家庭も仕事もうまくいって楽しそうだから。もう私なんて大変よ、独りで子供見なきゃいけないから今日もバツバタで。

何気に子供自慢？

違うわよ。

子供いる人って、何かあると子供子供って言うよね。

そういう意味じゃ。

まあ、子供連れての離婚組は実際色々大変なのよ、ねえ夏子。

あ……。うん。

よりにもよつての時に熱を出したりね。仕事してたら子供が気になるし、子供といたら仕事に気になる。まだ小学生だもんね、夏子んところ。

そう？ 子供いるって楽しそう。あ！ つか冬子、あんた今日で結婚式2回目じゃない？ 女の楽しみ一番満喫してるの冬子だ。秋子見てよ、一回も結婚できないんだから。

ウオ！ 魔球飛んできた。ちよつと待つて！ できないんじゃないの。しない、しないしない。

違いは？

なんて言うの———自分の意思。

春子笑う。

夏子

春子

夏子

春子

夏子

春子

秋子

春子

夏子

春子

夏子

春子

夏子

春子

夏子

春子

夏子

冬子

夏子

冬子

春子

夏子

春子

秋子

春子

秋子

春子

秋子

春子

秋子

夏子 春子は自由で羨ましいわ。
春子 ……私だつて色々あんのよ。
秋子 そりゃそうよねえ、厳しい世界だもん。

ウェイター、アシスタント登場。

アシスタント 先ほど言われたコサージュを集めてきました。

春子 ありがとう、良かった間に合つて。

夏子 でも、バラバラねえ、色も形も。ま、仕方ないか。

春子、夏子、秋子、広げられたコサージュの中から、好みのものを選んで胸につける。

アシスタント退場。

新しいシャンパンを渡し、テーブルの空グラスを片付け出すウェイター。

夏子 そういえばまだ新郎側にご挨拶もしてないし、ちよつと式の前に挨拶だけしてくる。

冬子 !

春子 あゝ私も行く行くゝタフネスガイ早く見たい。

秋子 私も!

出て行こうとする3人。

冬子 ま、待って、私も行く。

夏子 冬子はわざわざ行かなくても大丈夫よ、式までゆつくりしてて。

秋子 春子には変なこといわせないよう見張ってるから、安心して。

春子 どう言う意味よ。

冬子 ううん、どんな人か私も見たい。

3人 ?

立ち上がる冬子。

夏子 酔ってる?

冬子 ううん。

夏子 聞き間違えてなければ、今、どんな人か私も見たい、

つて聞こえた。

頷く春子、秋子。

冬子 あってる。

夏子 ハア？

春子 酔ってるわ、こりゃ！ 何杯飲んだの、シャンパン。
ゼロよ、水だけ。飲むわけないじゃない、挙式前に。

秋子 ウソオ。

夏子 ねえ冬子……相手、どんな人なの？

冬子 ……。

夏子 なんかずっとモヤモヤしてるの。

冬子 そうなの？

夏子 何気にはぐらかすよね、相手のこと。

冬子 ……。

夏子 式だって3週間前にいきなり言われて。会ったことないってどういう意味？

冬子 よ、よく知ってるのよ、本当に相性もいいし、毎日何時間も喋って遊んで、色んなことわかりあって、こんなにぴったりの人もいないって思ってる。

春子 やっだあ最高！。更にオールナイトのタフガイ。

夏子 (春子に) シツ！

冬子 で、でもね、まだ会ったことないの。

3人 !

冬子 ゲームで毎晩会うんだけど、まだ会ったことなくて。

夏子 どういう意味？ ゲームって。

冬子 オンラインゲーム。

春子・夏子 オンラインゲーム！

秋子 で、イノシシに乗って……と(汗を拭う)。

夏子 いや待って。待って。冬子、スマホすら持ってないガラケーの人だったよね？

春子 そうそう、前にいいものを見せてもらった。らくらくホンだっけ？

冬子 うちの子が家出る時にくれたの。簡単に連絡取りたい

秋子 から、ラインくらいやってって。会社から最新のスマホ支給されるらしくて、自分が使ってたスマホ置いていったの。

秋子 あ！。

なるほどね。

春子 毎日触ってたら、そのうちわかるようになる、ついで、うから触ってたんだけど。

冬子 で、ゲームを始めたよ。

夏子 うん……そんな感じ。

冬子 でもなんでそれが結婚に繋がるの？

夏子 さみしくなったところに、すっぽり入ったのかも。

冬子 ログインしたらいつも画面の向こうにいるし、色々親

切で……。毎日なんだかんだ会ってるうちに、あゲー

ムでなんだけどね、だんだん身近な人……家族に言え

ないようなことや、バカみたいな夢や失敗や、なんで

も話すようになって……。

秋子 あゝそこはちよつとわかる。

春子 えー、私は意外に誰にでも何でも言えちゃう。

夏子 ですよ。

春子 おい。

そこへきよろきよると新郎が入ってる。

秋子 ! (ビクツと)

夏子 ん？

新郎 あのう、冬子さんはいらっしやいますか？

夏子 冬子？ どちら様でしょうか？

新郎 バルザツキンスです

4人 !

冬子 あ……あ！

力んだ冬子、背中が破れる。

全員 ああゝ！

夏子、冬子にテーブルカバーをかける。

春子、2回手を叩くと、アシスタントが入ってくる。

新郎を何度も凝視する秋子。

春子 (アシスタントに) ちよつと、縫ってあげて。

秋子 (春子に) 春子が縫いなよ。

春子 私が？

秋子 得意でしょ、チクチク。
冬子 いや、私、前に仮縫いで刺された。

春子 刺してない。縫ってもらえただけで光栄と思って欲しいわ。今じゃもう縫うことしてないから。

秋子 全然？

春子 やってられないの、忙しくて。全部アシスタントに指示出してやらせてるわ。

秋子 昔はあんなに楽しそうに色々作ってたのにね……変われば変わるものね。

春子 ……。仕方ないなあ、針。

アシスタント、裁縫セットを出して春子に渡す。

春子 (アシスタントに) もういいわ、待機してて。

アシスタント、退場。

春子、冬子の破れた背中を縫い始める。固まっている新郎。

夏子 (新郎に) あの、今初めて会ったのよね？

新郎 はい。

夏子 それで結婚って……いいの？

新郎 はい。

キョロキョロする新郎。

4人 ……。

新郎 で、冬子さんはどこに？

4人 ……。

春子 目の前にいるじゃない。

新郎 あ、あなたが！

春子 私は違うわよ、春子よ。

新郎 ああ、春子さん。調子に乗ってるいけ好かないデザイン

春子 ナーとかいう人ですね。

春子 ハア!? ああ、手元狂った。

冬子 痛ったあー！ ほら、やっぱり刺された。あんた今わざと刺したでしょ。

笑う秋子。

新 郎 (秋子に) あ、あなたでしたか!
秋 子 違うわよ。私は秋子っていうの。初めまして。
新 郎 お名前はよく聞いています。
秋 子 え! だ、誰から!
新 郎 冬子さんから。
秋 子 ……あ。そうなの? なんて?
新 郎 ドッロドロの不倫してるバリツバリの更年期真っ最中の独身女。

笑う春子。

秋 子 ふーゆーこー!
春 子 よし、縫えた
秋 子 (コケる) 春子、そこは刺すところ! この人刺して。

新郎、夏子の手を取り向きなおす。

夏 子 違う、私は冬子じゃないからね。
新 郎 あ。
冬 子 ……。

新郎、冬子の方を向きなおし、

新 郎 ……となる。
冬 子 ……。
新 郎 あなたが冬子さんでしたか。
冬 子 ……はい。
新 郎 皆さん白いドレスだったので。
春 子 (春子に) ほら見ないさいよ、こうなるでしょ。
新 郎 いや、この場合どうなの。
冬 子 ちよつとイメージと違いますねー。
新 郎 ……。
秋 子 写真を見た感じ、もつところ…若い人かと。
新 郎 ハア(怒)!?
冬 子 や、やっぱり、け、結婚はなかったことに!
春 子 (ドスを効かせ) われ、何言うтонじゃ。

新郎の腕を掴む春子。

新郎 ヒイイ、こ、怖い！

冬子 ……

新郎 すみません！ すみません！

掴まれた腕を振り切り、新郎逃げ去る。

春子の手には、脱ぎ捨てられたジャケット。

へタリ込む冬子。

あんぐりする夏子と秋子。

春子 ——ハッ！ あの野郎、あつたま来た！ とっ捕まえ
てやる。

ジャケットを床に投げ捨て、 追いかけて出て行く春子。

秋子 なんなのアイツ。最低！ ……冬子、今でよかった

冬子 よ、あんな奴と一緒にならなくて！

夏子 ……

冬子 私、予定変更って式場に伝えてくる。

夏子 やめて。

冬子 え。

夏子 言わないで。

冬子 だってもう始まっちゃう。

夏子 今更なんていうの。逃げられましたって？

冬子 言うしかないんじゃない？

夏子 嫌、私の身にもなってよ。

冬子 でもこんな状態じゃ——

夏子 だめ、このまま続行する。

冬子 でも。

秋子 する。

冬子 冬子、気持ちはわかるけど、無理よ。

夏子 ……実は言ってなかったけど、うちの母呼んでるの。

冬子 夏子・秋子
え？

父が亡くなってすぐは元気だったんだけど、だんだん
認知症すすんじゃって……。こつちで一緒に暮らそう
って言っても嫌がって……。……なんかね、部分的にはい

いんだけど、ダメなところは全然ダメでさあ……ついに
デイじゃ無理で特養に移ることになったの……。

夏子・秋子
……。

家族は誰も呼んでないっていうから、驚かせようとし
て私……サブライズで朝子ちゃん呼んじゃった。

秋子・冬子
！

秋子、汗が止まらない様子。

冬子　は？　うちの子呼んだの？

夏子　……うん

舞台端に朝子到着。

登場しないが、少しガサッと舞台袖から音がすると良い。

冬子　ちよつと！　なんでそんな勝手なことするの！

夏子　勝手って。だって結婚するのに、実の娘が参列しな
いっておかしいじゃない。

冬子　で、勝手にそう思って、私に何にも相談もしないで、
朝子呼んだんだ。

夏子　うん……まずかった？

冬子　内緒だったのよ！

夏子　驚かせようと思って。

冬子　ありがた迷惑よ。朝子にはなんて言ったの？

夏子　お母さん結婚するからって

冬子　あの子、びっくりしてたでしょ。

夏子　うん、全然知らなかったって――

冬子　最低！

夏子　で、でも、私は冬子のためを思って。

冬子　私のため？　私のためだって思うなら、最初にまず私
に聞いてよ。朝子には言うつもりなかったのよ！　こ
んなのただ夏子の独りよがりよ。

夏子　独りよがりって酷い。

冬子　人には人の事情ってもんがあるのよ。朝子だって就職
したばかりで、今日は平日。仕事休まなきゃいけない
なるし、ここまで来る交通費だってバカにならないじ
ゃない？　まだ安いお給料の中から新幹線代って大き
いのよ。

夏子　ごめん。
秋子　ちよつと、もう汗ひどくて……風に当たってくる。

カーテンを開ける秋子。
花つけた大木が見える。
袖から大きめの物音。

秋子　ん？　あ！　あ、朝子ちゃん！
冬子　え！
秋子　ちよつと待って！

追いかけて出て行く秋子。

夏子　……。
冬子　最悪ね、もう。
夏子　ごめん……どうしたら。
冬子　どうって、このまま式を挙げるわよ。
夏子　それは無理よ。
冬子　本気で悪いと思ってるなら協力して。
冬子　落ちて着いて。
冬子　絶対今日結婚式するの！

夏子　……

冬子　……

夏子　……

冬子　……

夏子　……

冬子　……

夏子　絶対に。

冬子　どうしてそんなに今日にこだわるの？　……とにかく

夏子　一旦今日はキャンセルするしかない。

冬子　……母ね、どこまでわかっているかわかんないけど、ゲ

夏子　ームの男の話をすると、それだけはすっごく喜んで……

冬子　……本当だって信じちやって。いつ結婚するのってそれ

夏子　……

冬子　……

夏子　それで明日が特養に移動する日なの。自由に外出できる
タイミング、介護士さんとの兼ね合い考えると今日
しかなくて。

夏子　ああ……そうだったんだ。

冬子

この間、何か欲しいものあるって聞いたら、私の結婚式に出たいて。私が結婚しないと心配で死んでも死に切れないって。それで……もうね、嘘でもいいから、結婚したフリして安心させようと思って……それで先月夏子に電話したの。ここキャンペーンで特別安かったし。

夏子

言ってくれたらよかったのに、水臭いわね。

冬子

言ったらあんた気い使ってあれこれしそうだからさ……とにかく、そっと小さくやりたかったのよ……詳しくは式の後にでも笑って説明しようと思ってた。そっか……。

夏子

うん。

冬子

でも、式だけでも、結局すぐバレちゃわない？

夏子

そう？

冬子

だって結婚しないで、式するだけなんですよ、あの男と。下手したらもう会う事もないくらいなの。

冬子

結婚したって別居住まいの人もいるしさ、ねえ、結婚式しても、その後に籍入れたかどうかって誰も気にしないところない？

夏子

あーまあね。

冬子

そんなこと聞かないでしょ？ これまで聞いたことある？ 結婚式の後、籍いつ入れましたかとか、わざとわざと。

夏子

うん無い、な。

冬子

そ。だから今だけ幸せなフリさせて。私、結婚するんじゃないくて、結婚式するだけだから。籍入れるわけじゃないし、今日さえ済めば、後から別れちゃったとかなんでも言えるから。って母はどこまでわかってるかもわからないけど。

夏子

そっか。わかった。アリな気がしてきた。

冬子

よし、夏子、これ着て男のふりして。

冬子、脱ぎ捨てられたジャケットを夏子に着せようとする。

夏子

ちよ、冬子、落ち着いて！

冬子

夏子はタッパあるから大丈夫。

夏子

さすがにばれるって！ あ！

姿勢良く立っているウエイターに近づく夏子。

ウエイター ……。

夏子 あのね、頼まれごと聞いてくれない？

ウエイター はい？

夏子 このジャケット着て（強引に着せる）、胸にこのコサ
ージュつけてと。

ウエイター、夏子にされるがまま。

夏子 （冬子に）ジャン、彼でどうよ！

冬子 え！（ウエイターに）あなた年いくつ？

ウエイター 25です。

冬子 ギャ20も下！ 流石にどうなのこれ!?

夏子 いいのいいの。

冬子 待って！ 私、とんでもない人と思われない？ うち
の子と大して変わらない年齢の相手って、何言われる
かわからなくない？

夏子 誰によ。もつとトンデモナイ事しようとしたのは
自分でしょ。いいよ、じゃあやめる？

冬子 ……うん、やめない。

夏子 ほら、もう仕方ない、やるしかない。

冬子 うん…：…そうだね、うん。

夏子 （ウエイターに）日当1万円、オウケイ？

ウエイター ちよつとオーナーに聞いてみないと……。

夏子 そっか、じゃ私が聞いてくる。オーナーはどこに？
多分そっちの奥だと。

ウエイター わかった！

ため息をつく冬子。

夏子、奥の廊下へ移動する。

物陰に隠れていた新郎と遭遇。

夏子 あ！

新郎 ヒヤッ！

夏子 ちよつといいい？

隅へ移動する2人。新郎、捕えられた小動物のよう。

夏子 あなたね、直前で逃げるくらいなら、どうしてOKしたの？

新 郎 ネットではやりとりしてましたから……今日だけつて言うのも知ってましたし。

夏子 だったら尚更、なんでもうっ！

新 郎 すいません、なんかもつとこう若い人かと、プロフィール見た感じでは20代くらいのの。

夏子 ええー。

新 郎 で、写真詐欺されてたんだってさつき気付きました。

！

新 郎 そんな嘘つき、今日だけじゃなくて、本当に結婚したことにはされるかもと思ったら怖くなって。

夏子 違うわよ、式の際に新郎のふりして欲しいだけ。

新 郎 でも写真もプロフィールも詐欺書くような人ですよ。

夏子 冬子はそんなことするような人じゃないんだけどな。

新 郎 でも僕にしたんです。誰でも裏の顔はありますから。

……。

新 郎 最初はもつとノリも違ったんですよ。でも途中で急に人が変わったようになって。僕もそこで気づけばよかつたんですけど、ゲームのやり取りが楽しくて。

新 郎 新 郎、夏子にスマホを見せる。

新 郎 見てくださいよ、あまりに別人じゃ無いすか？

新 郎 あ！

夏子 ちよつと年上に見られがちとは言われてたんですけど

新 郎 ……あそこまでは。あれじゃお母さん。

夏子 あっはっは！ 冬子ったら朝子ちゃんのアカウントをそのまま使ったんだわ。

新 郎 え。

夏子 ねえ、でも少しは好きだった？ 冬子の事。ゲームの

新 郎 世界で。

新 郎 はい。

夏子 会うまでは本当に結婚式するつもりはあったの？

新 郎 ありました。嘘の結婚式って知ってましたけど、いい

新 郎 子だったらそれをきっかけに仲良くできたらいいか

新 郎 な、まあすごい可愛かったら別に本当に結婚しちゃ

つてもいいかも、なんて思ったりもして。ってまあその時の流れで。

その時の流れでって……そんないい加減な気持ちで結婚するとか変でしょ！

そうですか？

会ったこともないのに、本当に結婚してもいいかもとか、軽すぎない？ そう言う考えの人がさっさと離婚もするのね。

じゃあ重く考えたら離婚しないんでしょうか？

それは……。

逆に聞かせてください、あなたは重く考えて結婚して今幸せな結婚生活が続いていますか？

……。ああもう、色々一からやり直したい。

現実も色々リセットできたら楽なんですけどね。

無理よねえ、どんなにハードでもやり抜くしかない。

やり抜くしかないって、追い詰められますよね……生きるって不条理ですから……自殺者が絶えないのも、逃げないでギリギリまで頑張っちゃうからなんじゃないかと。

……何よ、こんなおめでたいはずの日にそんな話。

おめでたいはずの日に、おめでたくないことしちゃったんで、あんまりおめでたくない日かもしれない。それで、結婚っていいものでしたか？

……難しいね、その質問。

うちは両親がいつも喧嘩していて、お前のために離婚しない、お前のためお前のため、って呪文のように言っていて、子供心にごく嫌でした。自分のせいで親を不幸にしてるんだって思えて。したらその反面、こっちだって好きで産んでくれなんて言っていないぞ、とかなるじゃないですか。

ドキ。

でも母は外に行くとか仲良し家族を装ってる。父はずっと浮気してて、家に帰ると歪み合い。もうその空気もうんざりで。でも両親は恋愛結婚だったんですよ。なのに、上手くいっていなかった。終わってる関係なのに、僕の存在を大義名分にして……結婚って何ですかね。枯れた花に水をやり続けても、腐るだけの気がします。あ、祖父母はお見合い結婚で、一度も会ったこ

新夏
郎子

新夏
郎子

新夏
郎子

新夏 新夏
郎子 郎子

新夏 新夏
郎子 郎子

新夏
郎子

新夏
郎子

とないまま、結婚式の日に初めて会って結婚したんです。もう二人とも亡くなっています。

そうね、確かに昔は顔も知らない相手と結婚することもあったわよね。

はい。だからどんな形の結婚でも、その後は結局同じなんだと思います。だから、別に全然変なことじゃないんですよ、ネットで出会ったって。大事なのはきつかけじゃなくて、どんな家庭を築いていくか、ですからきつと。

そう言われるとそうねえ……。あなた意外にしっかりしてるのね。

そうですね。まあ、とにかく、冬子さんは、ゲームだと頼りなげで守ってあげたくなるような人だったんですけど、現実の冬子さんを見たら、あまりにキリツとした大人で、びっくりしました。

いろいろ甘いわねえ……。そう言うふうに見える人こそ本当は逆なのに。

とにかく、あの、そう言う事で……。失礼します。

(ため息)

新郎、退場。

夏子　あ、そうだオーナー探さなきゃ！

夏子、退場。

ウェイティングルーム鏡前、浮かない顔の冬子。

ウェイター　あの……

冬子　ん？

ウェイター　さっきのゲームの話ですけど。

冬子　はい。

ウェイター　あれって（冬子に耳打ち）ですか？

冬子　（パツと明るい顔になり）そうそれ！　知ってるの？

ウェイター　僕もやってるんです。

冬子　え、そうなの！

ウェイター　イノシシに乗ってっていうのが聞こえて、あれもしかしてって思ってた。

冬子　あはは！　ビンゴ！　わあすごい偶然！

ウエイター ですね！

冬子 で、今どのあたりのレベル？ イノシシはゲットできた？

ウエイター はい、勿論。

冬子 おっ、なかなかやるわねえ。ちなみに何色？

ウエイター 白です。

冬子 あっははは！ もう……白なんて、嘘嘘。初心者でしょう、バレバレ！ あのね、白のイノシシはギルド戦で優勝したチームのリーダーしか乗れないのよ。

ウエイター はいっ、そうです。

冬子 そうですって（笑）。でね、そんなの日本じゃ薔薇の騎士団しかないのよ。

ウエイター はい。

冬子 はいって……それじゃあ君、薔薇の騎士団になっちゃうじゃない！ それってもう神よ、神。あははは！

ウエイター はい。

冬子 え？

ウエイター 申し遅れました、わたくし、薔薇の騎士団本部総大将ホワイテスと申します。

冬子 え。ええええええ!!

冬子に跪くウエイター、恭しく礼をする。

冬子 ……まじ？

ウエイター はい。

冬子 ウソ、本当？ ありえない。絶対うそ。証拠見せてよ、ゲーム開くとか。

ウエイター、ズボンのポケットからスマホを取り出し、操作して冬子に見せる。

冬子 ギャー！！ 本物！ すごい！ 何これ。ねえ伝

説よ、あなた、伝説。新郎側の出席者、全員そのゲームのメンバーなの。びっくりするだろうなあ！ うっそまだ信じられない。きやああああホワイテス♥

冬子、尊敬の眼差しでうっとりウエイターを見つめる。
戻ってくる春子と秋子。

春子 ？？ 何これ。
秋子 めっちゃいい雰囲気。
春子 見て、あの冬子の顔。
秋子 目がハート。

オーナーと夏子、登場。

夏子 オウケイ出ました！
冬子 よし！

春子 こっちは取り逃がしたわ、あの貧弱モヤシのイノシシ野郎。

冬子 あのイノシシ、大したことないからもういいわよ。
春子 ええー!!

秋子 なに、どういう事？

夏子 私、イノシシもどきに文句言つといた、そこで会ったから。

秋子 ……イノシシの本名とか家族のことって何か聞いた？
夏子 不仲でストレスとか言ってたけど、なんで？

秋子 ううん、なんでもない。でも離婚してないのよね？
夏子 っって言ってたわよ。え、気になる、そこ？

秋子 聞いただけ。

夏子 それより朝子ちゃん、どうだった？

秋子 説明したらめっちゃウケてた。おかしいと思つたって。
大爆笑。

夏子 よかったあ。

秋子 ここまでの往復の交通費、夏子おばさんが払うからね
冬子 っって言つといたわよ。

夏子 よし！
お婆さんって。私ナツチャンって呼ばせてるのに。あ
あもう、今日は何かとお金があるわね。

オーナー そろそろ準備はよろしいですか？ (冬子に) お母様
最前列でお待ちです。

頷く冬子。

春子 私たちはオツケー(秋子の腕を組み)冬子、人生は振り返らないで、前だけ見て進むに限るよ。

冬子　もう前向いてる。
春子　はやっ！

戸惑いながらも、春子の屈託のない笑顔と陽気さにつられていく
秋子。

秋子　ま、確かに。振り向かないで、楽しまなきゃね。

春子　そうよ、（振り返って夏子に）ね。

夏子　多分。

春子　多分じゃだめよ。平均寿命まで生きるとしても、私た

ちもう折り返し地点をすでに過ぎてる。もう朝を超えて、真昼も超えて、夕方のすぐ手前。ちょうどこのく
らいの時間。

昼下がりの大木。

夏子　いやね、この後どんどん暗くなって夜がくる。

オーナー　あら、夕暮れも綺麗よ、夜になると星も綺麗。

冬子　冬になると更に星が綺麗よね。

夏子　冬か……花も枯れ落ちるわね。

秋子　シワシワのカラカラ。

オーナー　枯れないわよ。私たちはその季節で枯れてしまう花

じゃないの。木に咲く花よ。

夏子　木に咲く花？

オーナー　ええ。季節が移り変わっても、また翌年花をつける、

この白い薔薇の木のように。

皆、それぞれに窓辺の木を見やる。

夏子　……木に咲く花かあ。

オーナー　だから咲けない時があっても大丈夫。そういう時は地

に深く深く根を張っているの。するとね、次の季節が

廻ってきた時、より大きな花を咲かせられるのよ。

……

夏子　……

秋子　生きたぶんだけ花が咲く……か。

風にザワワ……ザワワ……木に咲く真白い花が揺れる。

オーナー
まだ若い蕾とは違って、人の痛みや苦しみもわかるようになっってくるのよね、夕方に差し掛かった薔薇たちは――幸せの形もまたそれぞれ、そのコサージュみたいに。

胸のコサージュに手をやる3人。
夏子、思わず涙ぐむ。

夏子 ……ごめん。何でだろ。
冬子 いいんじゃない。
夏子 いや、泣かない。笑顔、笑顔（とにっこり）。
冬子 ああ、もう、抱きしめさせて。

冬子、夏子を抱きしめる。

冬子 あんた、ずっといいこ。真面目でまっすぐで。
夏子 そう？

冬子 ちよつと不器用。
夏子 ……
冬子 たまにはさ、もつと適当でいいんじゃない？
夏子 ……

冬子 さつき私言い過ぎたよね。色々やってもらったのに。
夏子 ごめん。

夏子 ううん、私も自分のつい先走っちゃうところ再確認して嫌になっちゃった。

春子 小さな親切、大きなお世話ってやつね。
秋子 もー春子！

…でも、それってお互い様。

春子 （ため息）なんで近い人ほど言えないことが多いな
つちやうんだろ。なのに、なんで言わなくてもわかってくれるって思っちゃうんだろ。なんで相手のことを
何でもわかってるつもりになっちゃうんだらう。

春子 で、逆に近い人ほど余計なこと言っちゃうのよね。ま
あ、みんながみんな私みたいなのだったら収集つか
ないし…うまく出来てるのよ、世の中きつと。

秋子 なんだ、自分のことよくわかってんだ。あのね、鈍感
力って、ある意味最強の武器なんですって。

秋子にあっかんべえする春子。

春子 みんな、それぞれに大概ですから。

夏子 (半べそ泣き笑い) 私、みんなのこと大好き。

秋子 私も。なんていうの、こう、一緒に年を重ねていける
楽しみって素敵ね。1人じゃないって思えて。

冬子 時々刺されるけどね。

春子 薔薇には棘がつきものよ。

冬子 あんたのは毒針よ毒針。

春子 また刺したるかあ。

秋子 そんな事言うなら、さっきのあの時刺して欲しかった
わ、あのイノシシを。

夏子 ねね、せっかくだし、これ、乾杯しよ乾杯。

春子 しよしよ。

グラスを合わせる4人。

4人 カンパライ!

ウエディングの鐘の音。

ウエイター あのお……

4人 ! (口々に) 忘れてた!

オーナー (冬子に) どうされますか?

冬子 はい、予定通り、冬子、結婚しまーす!

夏子 結婚!?

ウエイターと腕を組むノリノリの冬子。

冬子 ありがとう。

ウエイター いえ。

冬子 本当に結婚してもいいけど。

ウエイター いえ。

3人、笑顔でその後ろに並ぶ。

扉を開けるオーナー。

メンデルスゾーン結婚行進曲。

皆笑顔で退場。

〈了〉